

氷見市埋蔵文化財分布調査報告(丘陵地区) I

2001年3月

氷見市教育委員会

氷見市埋蔵文化財分布調査報告(丘陵地区) I

2001年3月

氷見市教育委員会

序

東に富山湾を隔てた靈峰立山を仰ぐ氷見市は、古くより海の幸、山の幸に恵まれ、人々の生活の場として、数多くの文化遺産を生み育んできました。

平成10年、日本海側最大の前方後方墳である柳田布尾山古墳発見は、大きなニュースとして市民に受け入れられ、改めて氷見地域の古墳時代の様子に興味が示されるようになりました。

そこで氷見市では市内の古墳の現況を把握するため、3カ年計画で丘陵地区の分布調査を計画しました。本書はその第1年次の報告書であり、今後の文化財保護・活用の一助となることを願っております。

調査にあたりましてご指導・ご協力を賜りました皆様に、厚くお礼申し上げます。

氷見市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、氷見市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受け、事業として3カ年計画で実施している丘陵部遺跡詳細分布調査第1年目（平成12年度）の報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センター、富山大学人文学部考古学研究室の指導・協力を受けて、氷見市教育委員会が実施した。
- 3 調査参加者は次の通りである。

調査担当者

大野 究（氷見市教育委員会生涯学習課主任学芸員）

調査補助員

砂田晋司（富山大学大学院人文科学研究科学生）

猪狩俊哉・田中洋一・澤野慶子・豊田恒一郎・松澤那々子・山下研・山本敦幸・

北川康介・吉村 晶（以上、富山大学人文学部考古学研究室学生）

- 4 調査事務局は、氷見市教育委員会生涯学習課に置き、係長坂本研資・主任小谷超が事務を担当し、課長石崎久男が總括した。
- 5 本書の編集・執筆は、大野究が担当した。
- 6 調査にあたって、以下の機関・個人の方々からご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる（敬称略）。

富山考古学会・氷見市史編さん室・氷見市立博物館・指崎地区

西井龍儀・宮田蓮…・林寺巖州・唐川明史・高橋浩二

目 次

序

はじめに	1
第1章	2
第2章	4
第3章	16
おわりに	18
参考文献	19

図目次

第1図：本年度の調査区	3
第2図：宇波川流域の古墳分布図(1)	5
第3図：宇波川流域の古墳分布図(2)	7
第4図：阿尾川流域の古墳分布図	9
第5図：余川川流域の古墳分布図(1)	11
第6図：余川川流域の古墳分布図(2)	13
第7図：指崎向山7号墳測量平面図	17

図版目次

図版1	(1) 阿尾島田A 1号墳後円部 (2) 阿尾島田A 4号墳 (3) 阿尾島田A 5号墳
図版2	(1) 踏査・略測風景 (2) 測量風景 (3) 測量風景

はじめに

氷見市において初めて発見された古墳は、宇波古墳である。明治33年、宇波神社の改築のため地面を掘り返したところ、石室の中から人骨や鉄刀、土器が出土した。

明治40年、柿谷土谷山の開墾により丸山と呼ばれた塚が崩され、鉄鎌、鉄刀、土器が出土した。

大正4年、小久米諏訪平で開墾中に鉄刀が出土し、同11年には泉の鶴塚が地元の人たちによって発掘され、人骨、玉類、鉄刀、土器が出土している。この他大正年間には、開墾によって泉の鶴塚から玉類が出土し、惣領古墳も発見された。

昭和24年、指崎向山の古墳を鶴尾正一氏らが発掘し、礫床の埋葬施設が確認され、鉄刀、土器、玉類が出土した。

昭和25年、朝日長山古墳が発見され、同27年に齊藤道保氏を中心とした氷見高校歴史クラブが石室一部の発掘調査を行い、鉄刀、刀子、鉄鎌、馬具、土器などが出土した。

昭和38年、氷見高校歴史クラブによって、惣領古墳の発掘調査が実施され、礫床の埋葬施設が確認され、鉄刀・刀子が出土した。

昭和47年、氷見市教育委員会が朝日長山古墳の発掘調査を実施し、円筒埴輪、玉類、冠帽、土器などが出土した。

昭和55年から同62年にかけて、西井龍儀氏が上庄川流域を踏査し、古墳を多数発見している。

昭和57年、氷見市立博物館が開館し、古墳関係の遺物・情報の収集にあたる一方、宝住修三氏、両国貞氏、山岸太一氏など地元の方々からの情報を元に、上庄川流域、十三谷地区南部で古墳の確認を行っている。

平成5年、氷見市教育委員会が、イヨダノヤマ3号墳の発掘調査を実施し、短甲、鉄刀、鉄矛、鉄鎌、土器が出土した。

平成6年から9年にかけて、氷見市史編さん事業が本格化し、市史考古部会の踏査により、十三谷地区で古墳が発見された。

平成10年、市史考古部会の西井龍儀氏が、柳田布尾山古墳を発見した。

以上が平成10年までの氷見市における古墳調査の簡略な歩みである。

柳田布尾山古墳の発見以後、氷見市史考古部会の西井龍儀氏、宮田進一氏、林寺巖州氏などが中心となり、市内各地で新たな古墳の発見が相次ぎ、また、一部の主要な古墳の測量調査も実施されている。氷見市教育委員会では、文化財保護の立場から、これらの古墳の現況の把握と確認のため、丘陵地区の分布調査を平成12年度から3カ年計画で実施することになった。第1年目の本年度は、踏査によって市北部の宇波川・阿尾川・余川川流域の古墳群の現況を確認し、一部の古墳については測量調査を実施した。調査期間は平成12年12月から平成13年2月までの延べ17日間である。

なお第2年目の平成13年度は、市中部の上庄川流域について、第3年目の平成14年度は、市南部の仏生寺川流域について、調査を実施する予定である。

第1章 本年度調査地区の地勢と古墳の分布状況

氷見市は、富山県の西北部に位置し、地理的には能登半島の付け根東側にあたる。昭和27年の市制施行から昭和29年までに、旧太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230km²、人口は約5万8千人である。

市域は、南・西・北の三方が標高200~500mの丘陵に取り囲まれ、東側は約20kmの海岸線をもって富山湾に面している。丘陵は新第三紀と第四紀層から成り、山間部では地滑りが多く発生する。市北半部は、上庄川・余川川・阿尾川・宇波川・下田川といった小河川とその支流から成る谷地形であり、上庄川流域以外は、まとまった平野が少ない。市南半部は、主として十二町潟が堆積してできた平野と、その砂嘴として発達した砂丘から成る。

市街地は、海岸線のはば中央に位置し、近年は北と南に広がりつつある。鉄道は氷見駅と高岡駅を結ぶJR氷見線が通り、主要道路では高岡市と石川県七尾市を結ぶ一般国道160号と、富山市と石川県羽咋市を結ぶ一般国道415号が通っている。

代表的な産業は、稲作を中心とした農業と、ブリ定置網に代表される漁業であるが、近年は第二・第三次産業に従事する人が増え、高岡市など市街へ通勤する人も多い。また、能登半島入口の観光地として、市内には旅館・民宿が建ち並び、近年は温泉も各地で噴出している。

本年度の調査地区は氷見市北部地域であり、具体的には宇波川・阿尾川・余川川の流域である。

宇波川流域地区

宇波川は、石川県鹿島町の石動山(564m)の南斜面に発し、県境を経て白川地区で五十谷川と合流し、谷平野を通り宇波地区で富山湾に注ぐ延長約9.5kmの河川である。

氷見市北部は海岸にまで丘陵がせり出す地形であり、延長の短い小河川が開いた小谷が連続している。その中にあって、宇波川流域は比較的安定した平野が開けており、古代宇納郷の中心地域に比定されている。古墳群は宇波古墳を除いて、中下流に開けた平野北側の丘陵尾根に分布する。平野南側の丘陵に古墳が立地しない理由は、河道が南側丘陵の急峻な裾に接するという地形的な制約があったからであろう。

阿尾川流域地区

阿尾川は、氷見市最高峰の石場山(513m)に発し、吉滝(黒谷)地区あたりから谷平野を通り、阿尾地区で低地帯を流れて富山湾に注ぐ延長約11.5kmの河川である。

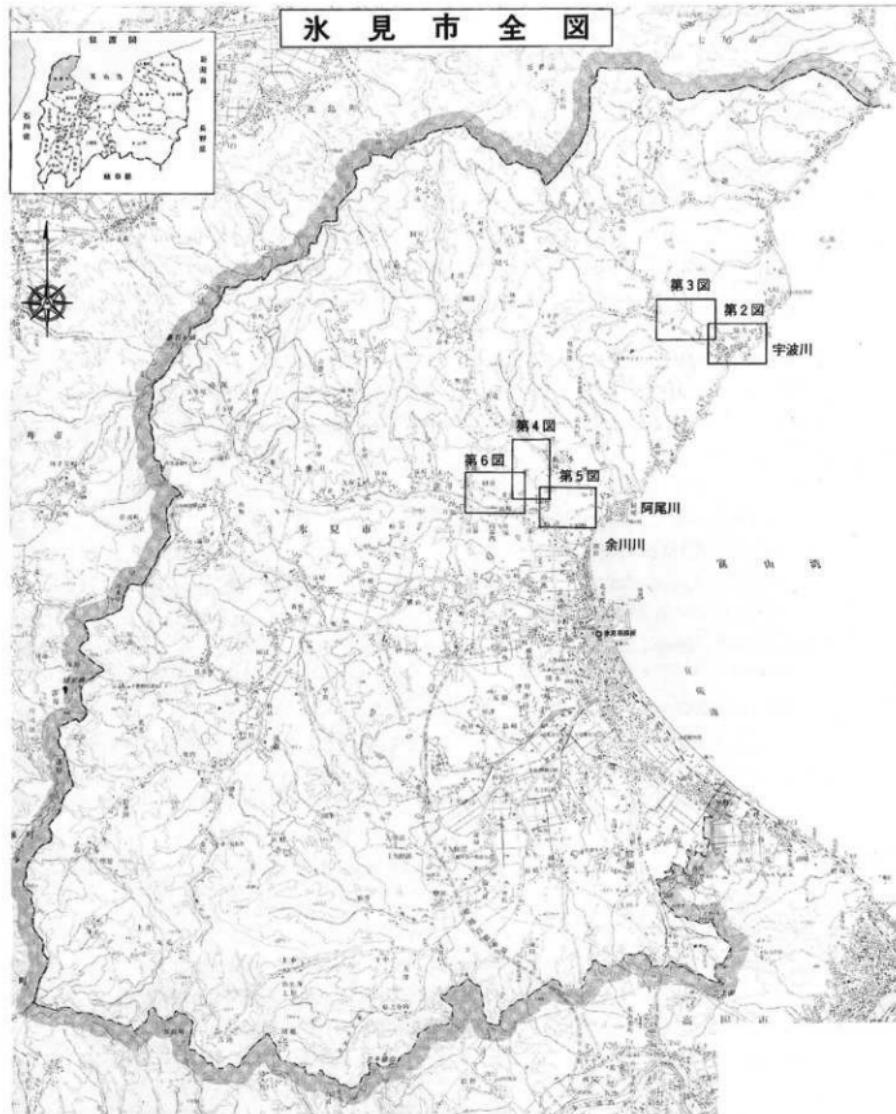
古墳は中流域の平野南側にのみ立地している。

余川川流域地区

余川川は、基石ヶ峰(461m)に続く県境尾根に発し、余川(目谷)地区で一削川と合流し、谷平野を通り、稻穂地区で低地帯に入り、間島地区で富山湾に注ぐ延長約13.5kmの河川である。

下流左岸と中流左岸の丘陵上に古墳が立地する。中流域の分布範囲は狭いが、密度が濃いのが特徴である。

氷見市全図



第1図 本年度の調査区

第2章 分布調査の成果

A：宇波川流域の古墳群

1 宇波古墳 遺跡番号205008 宇波地内 第2図

宇波川下流右岸の丘陵先端にある宇波神社境内に立地し、標高は約5m、平野との比高差は約2mである。明治33年本殿改築のため地廻しをしたところ、石室が発見され、その中から人骨1体分、須恵器2点（はそう1・錐瓶1）、鉄刀2振が出土した〔清水1960〕。墳形や規模は不明であるが、現況から径10m前後の円墳かと思われる。須恵器から6世紀中頃の古墳と推定される。境内にはもう一箇所古墳状の高まりが観察されることから、この付近には以前数基の後期古墳が存在していた可能性がある。

2 熊野神社古墳群 遺跡番号205112 宇波字吉田地内 第3図

宇波川下流左岸の丘陵上に立地し、標高28~56m、平野との比高差は14~42mである。丘陵の先端には熊野神社が鎮座する。古くから知られていたが、本年度改めて現況を確認した。なお、中世墓の可能性もある。

1号墳は30.0×29.0mの円墳又は隅丸の方墳であり、高さは4.0~5.0mである。墳頂部は16.0×11.5mの平坦面であり、その南東（尾根先端寄り）部に直径6m、高さ0.6mの塚状遺構がある。墳頂部からは富山湾を見ることが出来る。

2号墳は直径16.0mの円墳であり、高さは1.5mである。なお、2号墳の南側に4.0m四方で、高さ0.5mの集積墓と見られる遺構が1基ある。

古墳群東側の丘陵裾に、宇波ヨシダ遺跡があり、土師器と中世の遺物が採集されている。

3 脇方十三塚古墳群 遺跡番号205135 脇方、小境地内 第2図

宇波川下流左岸の丘陵上に立地し、標高26~40m、平野との比高差は24~38mである。一部中世墓の可能性もある。古くから知られていたが、本年度改めて確認した。

1号墳は直径20.0mの円墳であり、高さは4.0mである。墳頂部は直径6.0mであり、性格不明のシリト質の石材が5個散乱している。また、古墳南西裾には、玉砂利の集石がある。

2号墳は直径14.0mの円墳であり、高さは2.0mである。墳頂部は直径3.0m程で中心よりやや北西に寄る。

3号墳は直径8.5mの円墳であり、高さは1.2mである。

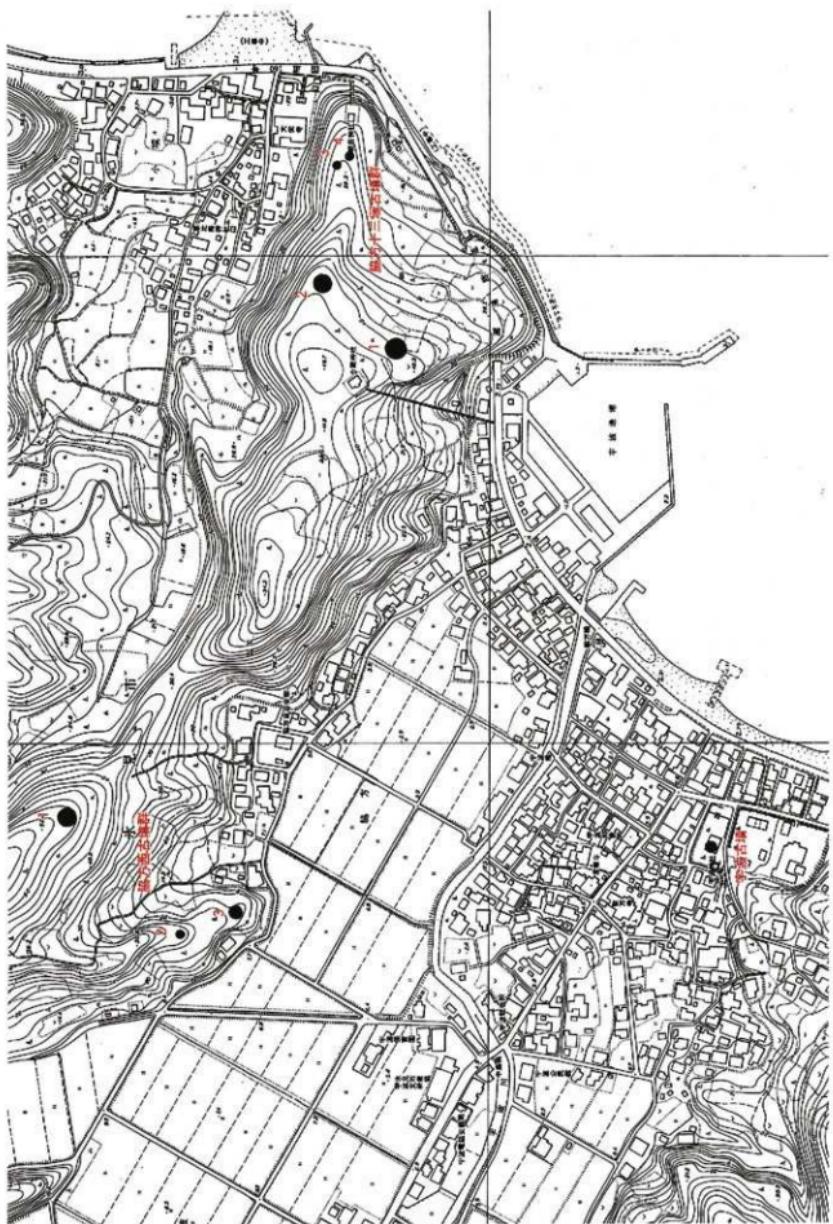
4号墳は直径7.5mの円墳であり、高さは0.6mである。頂部に蘿みがある。

1・2号墳は脇方地区の今藏神社の境内近くに所在し、3・4号墳は小境地区の朝日神社の境内に所在する。なお、今藏神社境内周辺には「十三塚」の地名が残っており、柳田国男のリストにもあげられている〔柳田1913〕。なお、今藏神社の本殿奥には、3m四方に玉砂利を敷いた集石墓が1基所在する。

4 脇方西古墳群 遺跡番号205319 脇方地内 第2図

宇波川下流左岸の丘陵上に立地し、標高22~50m、平野との比高差は15~43mである。平成12年に

第2図 宇波川流域の古墳分布図(1) S = 1/5000



発見された。

1号墳は直径16.0mの円墳であり、高さは2.0mである。墳頂部は直径10.0m前後と広く、平らな古墳である。

2号墳は直径6.0mの円墳であり、高さは0.6mであるが、自然地形の可能性もある。

3号墳は直径14.0mの円墳であり、高さは1.5mである。

1号墳と2・3号墳は浅い谷を挟んだ別の尾根に所在し、立地がやや異なるが、一応ひとつの古墳群としてとらえておく。1号墳は中期、残りは後期の古墳か。

5 宇波安居寺古墳群 遺跡番号205321 宇波地内 第3図

宇波川下流左岸の丘陵上に立地し、標高42~62m、平野との比高差は32~52mである。平成12年に発見された。古墳の周囲には堀切などの遺構があることから、同じ丘陵続きに立地する宇波城跡と関連し、中世に再利用された可能性がある。

1号墳は直径29.0mの円墳であり、高さは3.5mである。古墳裾に幅6.7~8.5mの周濠がめぐる。墳頂部は直径約13.0mの平坦面であり、周濠内に2箇所豊頃状の遺構があることから、城郭に転用され、改変された可能性がある。

2号墳は直径24.5mの円墳であり、高さは2.0mである。

3号墳は直径28.0mの円墳であり、高さは3.0mである。

3基とも25~30mほどの規模を有し、直径の割に高さの低い古墳であり、古墳時代中期の築造と推定される。

B：阿尾川流域の古墳群

1 指崎向山古墳群 遺跡番号205021 指崎字向山地内 第4図

阿尾川中流右岸の丘陵上に立地し、標高33~50m、平野との比高差は約30~45mである。このうち13号墳は、昭和24年に発見され、同年発掘が行われた。なお、〔氷見市教委1983〕で4・11・12号墳としたものは、自然地形と思われる。

1号墳は直径21.5mの円墳であり、高さは3.0mである。

2号墳は直径7.3mの円墳であり、高さは1.0mである。

3号墳は直径9.2mの円墳であり、高さは1.5mである。

5号墳は直径11.0mの円墳であり、高さは1.5mである。頂部に穴がある。

6号墳は直径14.0mの円墳であり、高さは1.3mである。頂部平坦面は直径6.5mと大きい。

7号墳は、これまで8号墳としていた部分を前方部とする全長19.0mの前方後円墳であることが、測量調査であきらかになった。前方部長7.0m、前方部幅6.0m、後円部径12.0m、後円部高1.5mである。

9号墳は長軸16.0mの方墳であり、高さは2.0mである。南東裾のカットは、2・3年前までここにあった墓地に伴うものである。

10号墳は直径8.5mの円墳であり、高さは1.2mである。

13号墳は直径約16.0mの円墳であり、高さは2.0mである。昭和24年の発掘で、礫床の埋葬施設が確認され、鉄刀1振、須恵器はそう1点、管玉9点が出土した。須恵器の特徴から、6世紀中頃の古墳と指定される。13号墳の所在地は長らく不明になっているため、今回の調査では地元の方々にもご

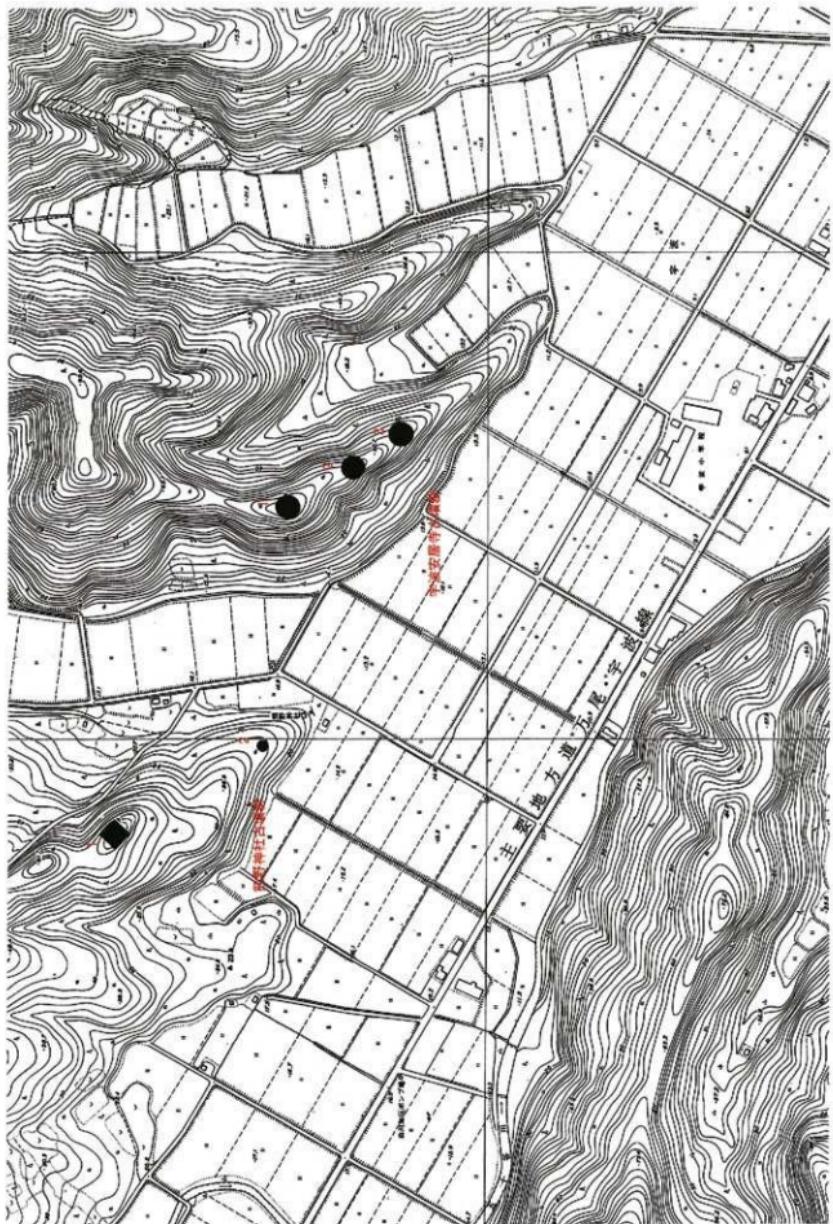


図3 国字川流域の古墳分布図(2) S = 1/5000

協力いただき付近を踏査したが、熊笹が生い茂り、その場所を特定できなかった。

14号墳は直径17.0mの円墳であり、高さは2.5mである。

13・14号墳を除いた古墳は、丘陵端の台地状の場所に立地しており、そのあり方から7号墳を含めて後期古墳と推定したい。13号墳は調査により後期古墳であることが判明しているが、他の古墳と異なり丘陵の緩斜面に立地しており、調査時の図面が頂部平坦面が西に寄っていることと合わせて、指崎大谷古墳群の円墳と同様の墳形と想定される。14号墳は1基だけ独立した様相であり、時期差のある可能性が残る。

2 指崎大谷古墳群 遺跡番号205322 指崎地内 第4図

阿尾川中流右岸の丘陵上に立地し、標高は32~64m、平野との比高差は20~50mである。平成11年に発見された。

1号墳は長軸12.0mの方墳であり、高さは1.5mである。

2号墳は長軸14.0mの方墳であり、高さは2.0mである。

3号墳は長軸8.5mの方墳であり、高さは1.2mである。

4号墳は長軸10.0mの方墳であり、高さは1.5mである。東側裾を地滑りで欠損する。

5号墳は長軸14.0mの方墳であり、高さは1.5mである。東隅を地滑りで欠損する。

6号墳は直径14.0mの円墳であり、高さは2.0mである。斜面を切り込んで築造され、裾に周濠がめぐる。

7号墳は直径12.5mの円墳であり、高さは1.3mである。斜面を切り込んで築造される。

8号墳は直径7.0mの円墳であり、高さは1.2mである。斜面を切り込んで築造される。

9号墳は直径10.0mの円墳であり、高さは1.2mである。斜面を切り込んで築造される。

10号墳は長軸8.5mの方墳であり、高さは1.0mである。11号墳と連接する。

11号墳は長軸11.0mの方墳であり、高さは1.5mである。

12号墳は長軸15.5mの方墳であり、高さは2.5mである。13号墳と連接する。

13号墳は長軸14.5mの方墳であり、高さは2.0mである。

14号墳は直径14.5mの円墳であり、高さは1.5mである。斜面を大きく切り込んで築造される。

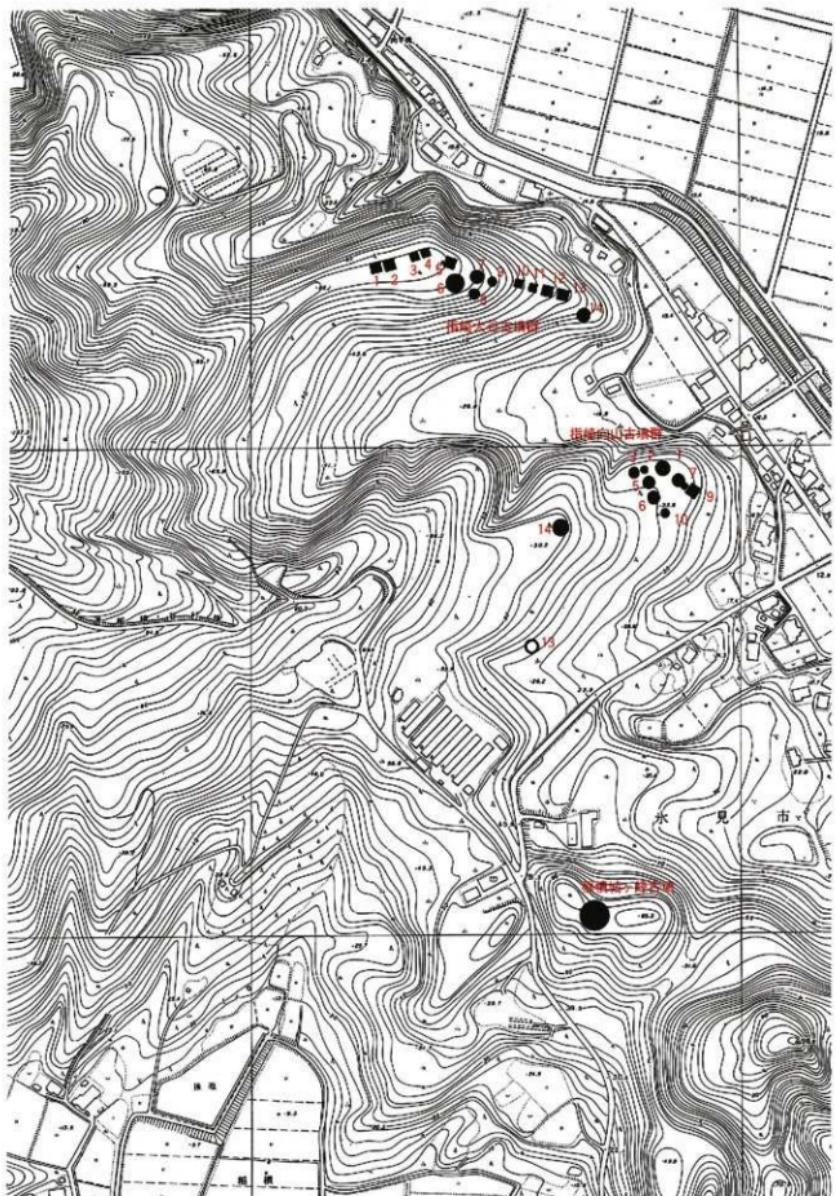
方墳と円墳から成る古墳群であるが、立地から方墳の方が先行すると思われる。円墳はいずれも斜面を切り込んで築造される特徴がある。後期古墳であろうか。

C：余川川流域の古墳群

1 阿尾島田古墳群 遺跡番号205302 阿尾字島田地内 第5図

余川川下流左岸の平野を臨む丘陵上に立地し、標高32~56m、平野との比高差は28~52mである。平成11年に発見された。立地からA支群とB支群に分けられる。なお、本古墳群のうち、A1・A2・A4・A5・A6・A7号墳については、氷見市史編さん委員会考古部会が測量調査を実施しており、その成果も含んで以下記述をする。^注

A1号墳は、全長72.0mの前方後円墳である。後円部は径36.0m、高さ7.0mで、南北方向にやや長円の形態をとり、西側の一部は地滑りで失われている。前方部は長さ36.0m、高さ1.5mと低平で長大なものであり、端部で撥型にひらく。また、前方部中央は、後世の山道のために断ち切られている。後円部頂には、5.0m四方の「コ」の字状の土壘が築かれている。



第4図 阿尾川流域の古墳分布図 S = 1/5000

A 2号墳は11.0×12.0mの方墳であり、高さは2.0mである。北側裾に張り出し部がある。A 1号墳の後円部に接するように築かれている。

A 3号墳は直径18.0mの円墳であり、高さは2.5mである。西側裾に張り出し部が推定される。墳頂部に、A 1号墳同様の「コ」の字状の土星が築かれている。

A 4号墳は直径30.5mの円墳であり、高さは4.0mである。墳丘裾に幅約3mの周濠がめぐる。墳頂部に、A 1号墳同様の「コ」の字状の土星が築かれている。

A 5号墳は直径12.0mの円墳であり、高さは2.2mである。

A 6号墳は直径22.0mの円墳であり、高さは3.2mである。南西裾に張り出し部が推定される。

A 7号墳は直径20.0mの円墳であり、高さは2.5mである。

A 8号墳は直径12.0mの円墳であり、高さは1.0mである。

A 9号墳は直径8.0mの円墳であり、高さは1.0mである。

B 1号墳は直径11.0mの円墳であり、高さは1.0mである。

B 2号墳は直径10.0mの円墳であるが、自然地形の可能性がある。

B 3号墳は直径10.0mの円墳であり、高さは1.0mである。

以上、本古墳群は、A 2号墳を除いて円墳主体の構成である。A 1号墳については、市史考古部会の測量調査により、全長72.0mの前方後円墳と推定されている。前方部と後円部の比高差が大きく、前方部は低平であること、前方部が狭長でくびれ部が不明確であること、墳丘裾が前方部と後円部は同一レベルでめぐらず、前方部が低いこと、といった特徴があり、同様の特徴をもつ前方後円墳として、小矢都市の谷内16号墳〔富大考古研1988〕、高岡市の男撰1号墳〔富山考古学会2000〕、氷見市の日名田1号墳〔大野1999〕が近年知られるようになった。この見方が正しければ、阿尾島田A 1号墳は県内で最大の前方後円墳となり、築造時期も前期の早い段階に求められよう。他の古墳のうち、比較的接近して築かれているA 4～7号墳は、立地や切り合いからA 4→A 5→A 6→A 7の順に築かれたと推測され、時期も古墳時代中期のものであろう。

2 稲積オオヤチ古墳群 遺跡番号205303 稲積字オオヤチ地内 第5図

余川川下流左岸の丘陵上に立地し、標高24～58m、平野との比高差は20～54mである。平成11年に発見された。立地からA支群とB支群に分けられる。なお、A 1・A 7号墳については、氷見市史編さん委員会考古部会が測量調査を実施しており、その成果も含んで以下記述する。^注

A 1号墳は全長47.0mの帆立貝型古墳であり、高さは7.0mである。直径は36.0m、張り出し部の長さは11.0mである。規模の割に高さがあり、墳頂部は直径12.0mである。

A 2号墳は全長18.0mの前方後円形の高まりであるが、自然地形の可能性がある。

A 3号墳は長軸18.0mの方墳であり、高さは1.5mである。

A 4号墳は長軸19.5mの方墳であり、高さは2.0mである。南側に張り出し部が推定される。

A 5号墳は長軸13.5mの方墳であり、高さは2.0mである。南側に張り出し部が推定される。

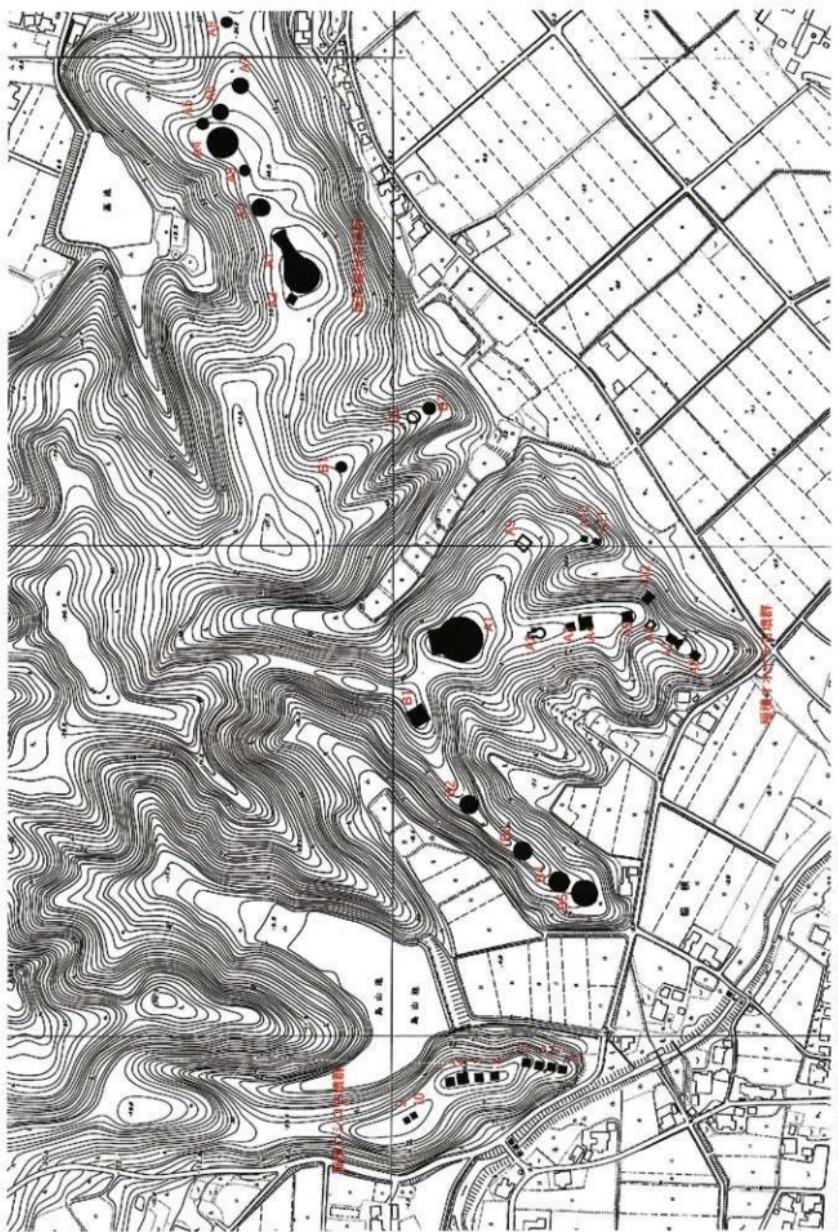
A 6号墳は長軸13.0mの方墳であり、高さは2.0mである。南側に張り出し部が推定される。

A 7号墳は全長23.0m、高さ2.7m、後方部長15.0m、前方部長8.0mの前方後方墳であるが、全長20.0mと一回り小さくみる意見もある。

A 8号墳は長軸9.0mの方墳であり、高さは1.0mである。

A 9号墳は長軸11.0mの方墳であるが、テラス状を呈し、人工的な平坦面の可能性がある。

第5図 余川川流域の古墳分布図(1) S = 1/5000



A10号墳は長軸10.5m、高さ0.6mの方墳である。

A11号墳は長軸11.0m、高さ0.6mの方墳である。

A12号墳は長軸12.0m、高さ0.6mの方墳である。

B1号墳は長軸14.0mの方墳であり、高さは2.0である。

B2号墳は直径22.0mの円墳であり、高さは2.5mである。

B3号墳は直径16.0mの円墳であり、高さは1.5mである。やや低平な墳形である。

B4号墳は直径15.5mの円墳であり、高さは2.0mである。B5号墳に接し、北側裾は構成の掘切状造構により、削平されている。

B5号墳は、直径20.5mの円墳であり、高さは3.0mである。南側裾がテラス状になっている。

A1号墳は県内で初めて確認された帆立貝型古墳であり、その後唐川明史氏によって、加納蛭子山号墳も、帆立貝型古墳ではないかとの指摘を受けている。近辺の帆立貝型古墳では、氷見市と接した石川県鹿島町に5世紀初め頃の水白鍋山古墳が確認されており、また同町の陵墓参考地小田中親王塚古墳も、帆立貝型古墳の可能性があり、4世紀後半の築造と推定されている〔鹿島町1982〕。墳形からみれば、A1号墳はこれらと同様の築造時期と推定できようが、鹿島町の両例が低丘陵端に立地しているのに対して、A1号墳は丘陵尾根上という違いがあり、注意が必要である。

本古墳群のあり方をみれば、A支群が方墳主体であるのに対して、B支群は円墳主体である。その中でA7号墳は前方後方墳であり、前期でも早い時期と推定される。両支群の差は時期差であろうか。

3 稲積ウシロ古墳群 遺跡番号205304 稲積字ウシロ地内 第5図

余川川下流左岸の丘陵上に立地し、標高22~35m、平野との比高差は18~31mである。平成11年に発見された。

1号墳は長軸16.5mの方墳であり、高さは2.0mである。

2号墳は長軸21.0mの方墳であり、高さは2.0mである。

3号墳は長軸13.5mの方墳であり、高さは2.0mである。

4号墳は長軸10.5mの方墳であり、高さは1.2mである。

5号墳は長軸20.8mの方墳であり、高さは2.0mである。前方後方墳の可能性がある。

6号墳は長軸10.7mの方墳であり、高さは2.0mである。

7号墳は長軸11.0mの方墳であり、高さは2.0mである。

8号墳は長軸10.5mの方墳であり、高さは1.5mである。

9号墳は長軸6.0mの方墳であり、高さは0.8mである。

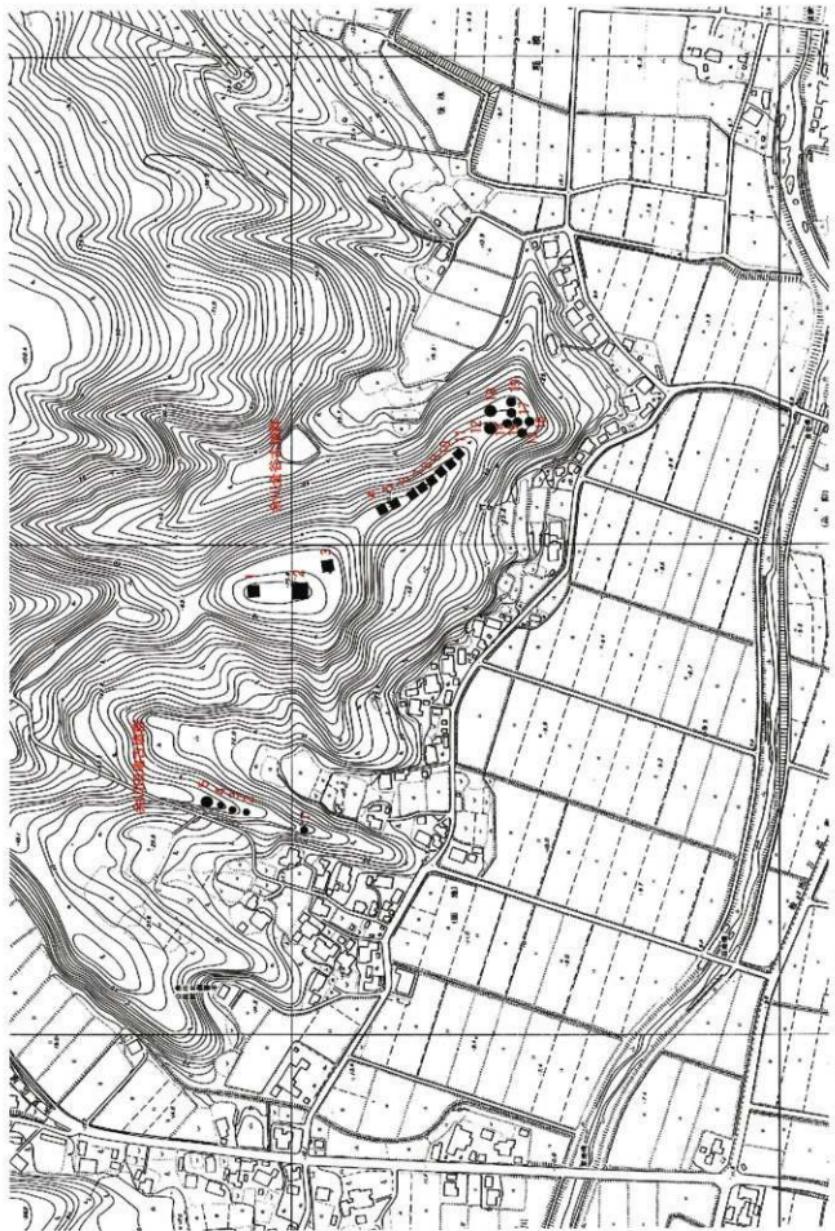
10号墳は長軸7.0mの方墳であり、高さは1.2mである。

本古墳群は方墳のみで構成されるが、時期を推定する手がかりは少ない。

4 稲積城ヶ峰古墳 遺跡番号205305 稲積、指崎地内 第4図

余川川と阿尾川の間の丘陵上に立地し、標高約64m、平野との比高差は約55mである。平成11年に発見された。烟造成のための段々が直角に折れ、四角くみえるが、一応径33.0m、高さ5.0mの円墳とする。なお、北西方向の地形を長さ37.0mの前方部とみて、全長72.0mの前方後円墳とする可能性もあるが、中離線がずれること、前方部長が後円部径を上回ること、前方部先端の裾が不明瞭であることから、一応円墳としておく。時期を推定する手がかりは少ない。

第6図 余川流域の古墳分布図(2) $S = 1/5000$



5 余川金谷古墳群 遺跡番号205324 余川地内 第6図

余川川中流左岸の丘陵上に立地し、標高は40~75m、平野との比高差は30~65mである。平成12年に発見された。

1号墳は長軸13.5mの方墳であり、高さは2.0mである。現況では隅が突出する感があり、弥生末期の四隅突出墳丘墓の可能性がある。

2号墳は長軸16.0mの方墳であり、高さは2.0mである。

3号墳は長軸9.0mの方墳であり、高さは1.0mである。

4号墳は長軸19.0mの方墳であり、高さは2.0mである。北側に張り出しをもつ。西側山道で欠損する。

5号墳は長軸10.0mの方墳であり、高さは1.2mである。山道で分断される。

6号墳は長軸10.0mの方墳であり、高さは0.6mである。山道で分断され、頂部削平される。

7号墳は長軸11.5mの方墳であり、高さは1.5mである。山道で分断される。

8号墳は長軸9.5mの方墳であり、高さは1.2mである。山道で分断される。

9号墳は長軸9.0mの方墳であり、高さは1.2mである。山道で分断される。

10号墳は長軸12.0mの方墳であり、高さは1.5mである。山道で分断される。

11号墳は長軸11.0mの方墳であり、高さは1.5mである。山道で分断される。

12号墳は直径13.0mの円墳であり、高さは2.5mである。斜面を大きく切り込み築造される。

13号墳は直径9.0mの円墳であり、高さは0.8mである。

14号墳は直径10.5mの円墳であり、高さは0.9mである。

15号墳は直径12.0mの円墳であり、高さは1.5mである。

16号墳は直径10.5mの円墳であり、高さは1.5mである。

17号墳は直径6.5mの円墳であり、高さは0.6mである。

18号墳は直径11.0mの円墳であり、高さは1.5mである。北側裾に溝がめぐる。

19号墳は直径11.0mの円墳であり、高さは1.5mである。山道で一部欠損。

本古墳群は、山頂部と尾根上に築かれた方墳と、丘陵端台地部に築かれた円墳とに分類される。前者には弥生末の墳丘墓と推定されるものを含み、古墳時代前期の築造と推定する。後者はそのあたりから指崎地区的古墳群と類似しており、後期のものと推定する。

6 余川田地古墳群 遺跡番号205325 余川地内 第6図

余川川中流左岸の丘陵上に立地し、標高30~38m、平野との比高差は20~28mである。本年度新発見の古墳群である。

1号墳は直径12.5mの円墳であり、高さは2.0mである。

2号墳は直径10.0mの円墳であり、高さは1.0mである。北側裾に溝が巡り、東側が道でカットされる。

3号墳は直径6.3mの円墳であり、高さは0.7mである。

4号墳は直径9.0mの円墳であり、高さは1.2mである。北側裾に溝がめぐる。

5号墳は直径15.0mの円墳であり、高さは2.0mである。北側裾に溝がめぐる。

以上、円墳から成る古墳群であるが、時期を推定する手がかりは少ない。

注

水見市史編さん委員会考古部会による測量調査の成果は、平成13年7月刊行予定の『『水見市史』
7 資料編五 考古』に掲載される予定である。なお、この測量調査の結果を基に、富山考古学会が
主催した稲積オオヤチ古墳群・阿尾島田古墳群の見学検討会が、平成12年7月30日に実施されている。

第3章 測量調査の成果

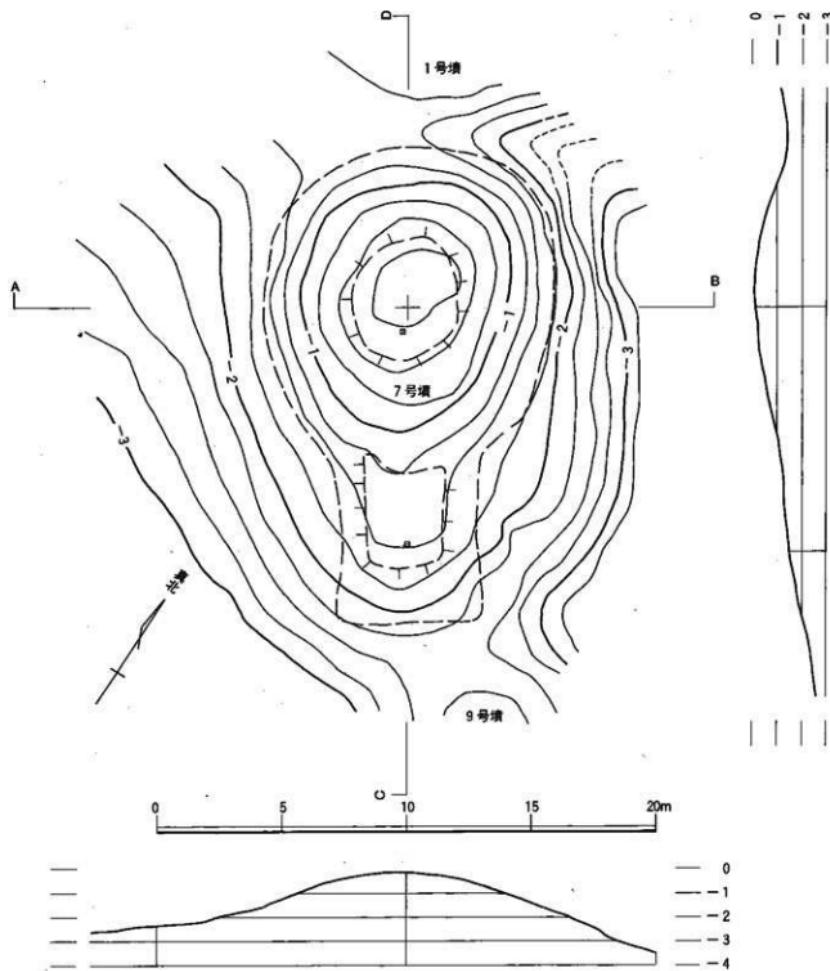
本年度踏査を実施した古墳の中から、指崎向山7号墳の測量調査を実施した。調査にあたっては、指崎地区区長の福田謙一氏、地権者である島内忠夫氏のご理解とご協力を得た。記して感謝申し上げる。

指崎向山古墳群は、阿尾川中流右岸の丘陵上に立地する古墳群であり、これまで13基の円墳によって構成されると考えられてきた。しかし、近年市史編さん委員会考古部会の踏査により4・11・12号墳としたものは自然地形との見方が強まり、その一方で新たに14号墳が確認された。また、7号墳と8号墳が接続し、前方後方墳になるのではないかとの指摘も受けた。

そこで本年度改めて周辺部を含めた踏査を行い、これらの状況を確認するとともに、7・8号墳について、測量調査を実施したものである。

測量の結果、7・8号墳は前方後方墳ではなく、前方後円墳であることが判明した。よって8号墳は欠番とする。

7号墳は標高約15.0mの丘陵端部に1号墳・9号墳に挟まれ、前方部を南東に向けて築造されている。全長19.0m、前方部長7.0m、前方部幅6.0m、前方部高0.8m、後円部径12.0m、後円部高1.5mである。前方部はあまり開かず、墳頂部は狭く、平らにはならない。現状では段築・葺石は確認されず、埴輪を含めた遺物も未採集である。1号墳との境東側は、山道として利用されていることもあり、浅い溝状になっているが、西側は標高がマイナス1.5m以上あり、裾が高くなっている。9号墳との境は明瞭な区画はなく、前方部前面の裾も不明確である。東側面はくびれ部裾にやや平坦な面がある他は、平野に向かって急に下っており、西側面は全体的になだらかで墳丘裾が不明瞭である。こうした特徴から周溝はないものと思われる。なお、正確な規模・墳形は発掘調査により確定する必要があろう。



第7図 指崎向山7号墳測量平面図 $S = 1/200$

おわりに

調査の結果、宇波川流域で5古墳群14基、阿尾川流域で2古墳群24基、余川川流域で6古墳群64基、合計13古墳群102基の古墳を確認した。

宇波川流域では、これまで後期古墳として宇波古墳が知られていたのみであったが、中流域の丘陵でも新たな古墳が発見され、それらの中には中期と推測される古墳も含まれている。前期古墳と推測される古墳は今のところ確認されていない。また、この地域では前方後円墳・前方後方墳といった前方部をもつ古墳は認められない。なお、脇方地区には7世紀代の脇方横穴群が確認されており、後期古墳に引き続くものと考えられる。

阿尾川流域では、後期古墳として指崎向山古墳群が知られていたが、新たに指崎大谷古墳群が発見された。ただ、古墳の分布は中流の一部地域に限られ、下流地域には認められない。しかし、前方後円墳が1基確認された。なお、海岸近くの断崖には、阿尾城山横穴群・阿尾瀬戸ヶ谷内横穴群が確認されており、後期古墳に引き続くものと考えられる。

余川川流域では、これまであまり古墳が認められなかったが、中流域・下流域で多数の古墳が発見された。特に下流域では地域としては大きな規模となる前方後円墳・帆立貝型古墳が含まれている。

氷見地域の古墳は、来年度に調査を予定している上庄川流域が最も分布の濃い地域と考えられる。上庄川下流の平野には低地帯があり、ここには小規模ながらラグーンが形成されていたと推定されている〔氷見市1999〕。地形からみれば、余川川流域のうち下流地域の古墳群は、このラグーンの北辺に位置することになる。今回の調査は水系ごとに古墳群を分類しているが、余川川下流地域の古墳群は、上庄川下流地域の古墳群とともに、ラグーン周辺の古墳群として、一様にとらえた方が良いかもしない。

参考文献

- 稻積教育百年史編纂委員会 1978 「稻積教育百年」
- 大野究 1990 「余川川流域の遺跡資料」『氷見市立博物館年報』第8号
- 大野究 1999 「日名田1号墳測量調査」『氷見市立博物館年報』第17号
- 鹿島町 1982 「鹿島町史」資料編(続)上巻
- 鷗尾正一 1950 「阿尾村の指崎古墳—その発掘について—」氷見郷土学会
- 清水一布 1960 『灘浦誌』
- 富山県立氷見高校歴史クラブ 1964 「富山県氷見地方考古学遺跡と遺物」
- 富山考古学会 1999 「富山平野の出現期古墳」
- 富山大学考古学研究室 1988 「谷内16号古墳」富山大学考古学研究報告第2冊
- 氷見市 1999 「氷見市史」9 資料編7 自然環境
- 氷見市教育委員会・氷見市立博物館 1983 「氷見市遺跡地図」
- 氷見市教育委員会 1989 「脇方横穴群」氷見市埋蔵文化財調査報告第10冊
- 氷見市教育委員会 1992 「氷見バイパス関連遺跡調査報告Ⅰ」氷見市埋蔵文化財調査報告第13冊
- 柳田国男 1913 「十三塚の分布及びその伝説」『考古学雑誌』3巻5号
- 余川のあゆみ編集委員会 1976 「余川のあゆみ」

図 版



(1)
阿尾島田A1号墳後円部
(東から)



(2)
阿尾島田A4号墳(東から)



(3)
阿尾島田A5号墳(西から)



(1)
踏査・略測風景(宇波地区)



(2)
測量風景(指崎向山 7号墳)



(3)
測量風景(指崎向山 7号墳)

平成13年3月25日 印刷

平成13年3月31日 発行

氷見市埋蔵文化財調査報告第32冊

氷見市埋蔵文化財分布調査報告(丘陵地区) I

編集・発行 氷見市教育委員会

〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号

TEL 0766-74-8215 (生涯学習課)

印 刷 富山スガキ株